

# 総務委員会資料

所管事務の調査（報告）

令和元年東日本台風における災害対応に関する  
検証を踏まえた取組について

資料 令和元年東日本台風における災害対応に  
関する検証を踏まえた取組について

令和2年11月18日

総務企画局

# 令和元年東日本台風における災害対応に関する検証を踏まえた取組について

## 1 令和元年東日本台風を踏まえた対応状況について

令和元年東日本台風では、避難所運営や被災された皆様への支援など、あらゆる場面で、自主防災組織をはじめ、地域の皆様の御協力をいただきながら、被災者支援が実施され、改めて、本市が持つ地域の力を実感するとともに、地域防災力の重要性が明らかになりました。

本市では、災害復旧を進めつつ、専門家の御意見をいただきながら、台風対応について検証を行い、できることから対策を講じるとともに、短期・中長期に分け計画的に取組を進めるとともに、浸水対策については国等をはじめ流域自治体と連携しながら進めてまいりました。

こうした取組を進める中、新たに新型コロナウイルス感染症が発生しましたので、その事態に対処しつつ、コロナ禍における避難所運営の考え方を整理し、マニュアル整備、備蓄の追加配備、職員研修や実地訓練の実施など、令和元年東日本台風を踏まえた対策を、感染症を前提とした対策に軌道修正しながら取組を進めてまいりました。

## 2 顕在化した課題に対する取組

### (1) 情報の収集・分析

#### ア 行政区を超えた多摩川流域の視点

→国土交通省の「水害リスクライン」を活用することにより6時間前から流域の水位予測を実施できるように改善

#### イ タイムラインの活用

→全局区でタイムラインを作成、7月28日の水害図上訓練（以下、「水害図上訓練」という。）で確認

#### ウ 公共施設での各種ハザードマップ等の活用

→「指定管理者制度初任者研修会」等を通じて施設所管に周知

### (2) 情報発信から避難へ

#### ア 市民からの問合せ

→ホームページの改善、サンキューコールとの連携体制を構築

#### イ 同報系防災行政無線による周知

#### ウ 地域の組織を通じた情報伝達

→放送内容のホームページ掲載等、新たな情報伝達方法を検討中

### (3) 避難所における対応

#### ア 避難所開設経験の差

#### イ 長期化を見据えた避難所運営体制

#### ウ 避難者があふれた避難所への対応

→多摩川流域の区では全避難所開設を前提に水害図上訓練でオペレーション等確認

→避難所運営の水準を維持するため、災害対応工程管理システムの導入を検討

#### エ 施設管理者との事前協議

→新型コロナウイルス感染症対策を前提に施設管理者との事前協議を実施

#### オ ペットの受入れ

→風水害時における緊急避難場所運営マニュアル（標準例）整備と職員研修による周知

→「号外！備える。かわさき」等を通じた市民周知

#### カ 避難所受付

→受付方法の見直し（カード配布）

# 令和元年東日本台風における災害対応に関する検証を踏まえた取組について

## キ 備蓄物資の提供のあり方

- 風水害時における緊急避難場所運営マニュアル（標準例）の整備と職員研修による周知〔再掲〕
- 「号外！備える。かわさき」や「ぼうさい出前講座」等を通じた周知〔再掲〕

## ク 行政職員主体の避難所運営

- マニュアル等の整備、職員研修、実地訓練の実施(6/24幸区・東小倉小、8/4多摩区・中野島小、8/31川崎区・殿町小)
- 令和3年度出水期を目途に災害対応工程管理システム導入を検討〔再掲〕

## ケ 高齢者、障害者、妊婦、災害時要援護者等要配慮者への対応

- 新型コロナウイルス感染症を踏まえ避難所開設時に要配慮者スペース設置をマニュアルに記載
- エレベーター設置済の避難所情報を防災マップに記載（対応中）

## コ 避難所のごみ（清掃等）

- 職員研修を通じたごみの持ち帰りの徹底、「号外！備える。かわさき」や「ぼうさい出前講座」等を通じた市民周知

## サ 避難所開設表示

- 各避難所に横断幕等の配備

## シ 災害時要援護者避難支援制度

- マイタイムラインを活用した、災害のケースに応じた避難方法検討支援（介護事業者等）

## (4) 被害情報から被災支援や応援要請

### ア （現場と災害対策本部事務局等との）情報の差異

- 今年度はLINE WORKSで試行、次年度からは新総合防災情報システムの整備及び区本部、避難所等へタブレットを配備

### イ 情報収集の目的の明確化（災害イマジネーションの欠如）

- 全局区でタイムラインを作成し、水害図上訓練で確認〔再掲〕
- 九都県市の危機管理部署が連携した人材育成の検討

### ウ 河川の溢水を想定した事前準備

- 全局区でタイムラインを作成し、水害図上訓練で確認〔再掲〕
- 公用車の退避場所の確保（協議中）

### エ 異なる報告様式

- 各局の被害情報報告様式を統一化及び情報伝達フローを整備
- 新総合防災情報システムで改善予定

### オ 効率的な復旧のための被害の全体把握

- 活動体制に、情報収集を担う職員を配備

### カ 職員の活動限界の設定

- 排水作業における退避基準の設定及びマニュアル等への反映（下水道部）
- その他の退避基準については検討中

# 令和元年東日本台風における災害対応に関する検証を踏まえた取組について

## キ ごみ（普通ごみ・資源物）収集の中止基準等

- 台風等発生時におけるごみ収集中止の判断基準の考え方を整理
- ホームページの改善、サンキューコールとの連携体制を構築〔再掲〕

## ク 災害廃棄物（収集体制）※通常ごみ収集との並行稼働

- 出勤体制等オペレーションを確認

## ケ 災害廃棄物 ※仮保管場所や資器材の確保等

- 仮保管場所の確保等について関係局区で共有
- 災害時協定に基づく協力要請について関係局区で調整

## コ 業務継続計画

- 想定災害のケースを「震災対策編」から「自然災害対策編」に拡大して見直しを実施

## サ 受援体制

- 水害図上訓練で確認〔再掲〕

## (5) 被災者に対する支援

### ア リ災証明

- 被災自治体で活用実績のある被災者台帳管理システム（罹災証明書発行システム）の導入に向けて準備中

### イ 支援メニュー

- 大規模災害発生に備え、「被災者支援の取組一覧」を更新

### ウ 本市の独自支援

- 九都県市で被害認定調査の体制整備等に係る国提案を実施

## エ ボランティア支援

- 災害ボランティアセンターの設置、運営に係る関係団体との役割分担等の見直し（対応中）

## (6) 議会及び報道対応

- 市議会に設置される災害対策会議との連携に向けて議会局と8月に調整を実施
- 大型台風の接近が予報される場合、令和元年東日本台風と同様に報道担当を通じて調整

## (7) 各本部運営

〔市本部会議の課題〕

- ・各局職員の本部事務局への常駐化
- ・発災時に想定される各部の対応事項や対応フロー等の事前確認
- ・土曜開庁後の避難所運営等、区本部運営への負荷の考慮不足  
→全局区でタイムライン作成、水害図上訓練で確認〔再掲〕
- ・冠水情報や内水氾濫の発生状況のタイムリーな把握
- ・市本部からのプッシュ型情報提供体制の構築  
→今年度はLINE WORKSで試行、次年度からは新総合防災情報システムの整備及び避難所等へタブレットを配備〔再掲〕
- ・会議運営に係る記録に対する認識不足  
→水害図上訓練で記録担当を設置するなど改善〔再掲〕  
→A I 音声認識を活用した議事録作成補助ツールの検証中
- ・4号動員発令に対する理解不足  
→水害図上訓練と連携してトップマネジメント研修を実施

# 令和元年東日本台風における災害対応に関する検証を踏まえた取組について

## 〔区本部会議の課題〕

- ・報告事項が多岐にわたり、資料作成や会議運営に時間を要した。
- ・本庁職員の活用ができなかった。
- ・避難所準備や電話対応など区危機管理担当に業務が集中したことにより区本部会議運営に影響が出た。
- ・退避等の判断基準がない中で避難指示発令地域へ職員を派遣した。  
→水害図上訓練や各区で訓練を実施し、オペレーション等を確認〔再掲〕
- ・活動現場での職員のスマホ使用が不謹慎という住民感情  
→活動体制に、情報収集を担う職員を配備〔再掲〕  
→「ぼうさい出前講座」等を通じた市民理解に向けた取組推進

## 3 請願第15号に係る報告について

### (1) 同様の災害を防ぐため、徹底した検証に基づく有効な水害対策を講じることについて

- 菅稲田堤地域の三沢川周辺では、短期対策として、大丸水門の機能回復が神奈川県により行われるまでの間の、暫定的な仮設止水板やポンプ施設、及び、土のうステーションを7月に設置  
また、水路の流下能力向上工事は8月に実施
- 三沢川及び、三沢川に接続する水路にカメラ及び水位計を設置し、観測情報を9月から市ホームページに公開
- 中長期対策として、当該地区の浸水被害を低減するため、水路網調査を実施
- 排水樋管における短期対策（ゲートの電動化、観測機器の設置、操作手順の見直し、排水ポンプ車の導入など）の効果を発現させるための訓練の実施  
→排水樋管周辺地域における中長期対策について、年度内に基本的な方向性を提示する予定

### (2) 国・県と連携し、多摩川並びに三沢川、用水路等、多摩川流域の河川しゅんせつなどにより水位を低減し、流量を確保する対策を早急に講じることについて

- 多摩川の河道掘削等については、流下能力を向上させる取組であり、水位を低下させる方策として重要性が高いものと認識していることから、国に要請しており、河道掘削等に向けた準備中
- 三沢川については、県に浚渫等の要望を継続して行っており、県による浚渫実施

### (3) 「マイタイムライン」の啓発について

- 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため休止していた「ぼうさい出前講座」を7月から再開
- 教職員への周知、高津高校や市立小学校等の授業においてマイタイムライン啓発
- 8月から川崎市介護支援専門員連絡会等、福祉事業者向け「ぼうさい出前講座」でマイタイムラインを紹介
- 「ぼうさい出前講座」等での意見等を踏まえ、マイタイムライン作成支援ツールの見直しに着手



### (4) 「防災まち歩き」について

- 令和元年東日本台風で多摩川の高水位による浸水被害が発生した3地域（河港水門、平瀬川下流部、三沢川下流部）を対象にした防災ワークショップを開催予定